

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100034		
法人名	株式会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム 柳河内		
所在地	〒815-0063 福岡県福岡市南区柳河内2丁目6番57号 TEL 092-562-3007		
自己評価作成日	平成30年06月01日	評価結果確定日	平成30年07月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成30年07月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「くつろぎの中で、ゆったり楽しく、その人らしく」を理念に、入居者様が自発的に生活ができるような支援を心がけている。入居者様の生活の中で、その方の出来る能力に合わせ役割を持っていただき、自立支援に向けて取り組んでいる。また、担当者やケアマネージャーを中心に、日常生活上での身体機能の訓練やケアプランを立案し、日々の生活中に取り入れることで、その方の生きがいに繋げるなど、身体機能の維持や向上、安心安全な生活の確保を目指している。入居者様に余生を楽しんで頂けるような事業所作りを目指し、スタッフを始め、ご家族、地域の方々とも協力し合いながら、社会参加へも繋げている。今年度よりホーム長が変更になる為、入居者様の生活に今後も支障がないように引き継ぎを強化し、関係性の構築にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム柳河内は、福岡市南区の閑静な住宅地の中にある、開設12年目を迎える2ユニット(定員18名)の事業所である。開設時から、自治会会長を始め地域からの温かな協力を得て、公民館や老人いこいの家と連携し、利用者がふれあいサロン等、地域の行事や活動へ積極的に参加する事で社会との繋がりを継続し、地域の一員として交流を深める中で、認知症やグループホームの啓発に取り組んでいる。ホームドクターによる訪問診療、緊急時の指示や看護師、介護職との連携で、24時間安心の医療体制が整い、家族への密な連絡やホーム便り等で詳細に報告する事で、家族の安心に繋げている。法人全体で、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮して働きやすい職場環境を整え、職員は定着している。理念や年間、月間目標を毎日唱和し、「寛ぎの中で、ゆったり楽しく、その人らしく」の実践に、職員が心を一つにして取り組む、グループホーム「柳河内」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安く過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寛ぎの中で、ゆったり楽しく、その人らしく」を理念としている。毎朝申し送りの時に、理念、年間月間目標を復唱することで、意識づけを行っている。	理念、「寛ぎの中で、ゆったり、楽しく、その人らしく」を掲げ、その他にも年間目標、月間目標を決めて、毎朝の申し送り時に唱和し共有している。来月からは、各ユニット毎、自分達で月間目標を定める事で、目標への意識づけの強化を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館や老人いこいの家など連携を取りながら、地域の活動にも参加をしている。また地域の活動にも積極的に参加するように努めている。(地域の活動:災害訓練、清掃活動、廃品回収、餅つき、ふれあいサロンなど)	町内会に加入し、地域の敬老会やシニアクラブ、ふれあいネットワークへの参加等、グループホームに入居されている方の生活状況を、地域の方に理解してもらうため積極的に外に出て行き交流に努めている。公民館やいこいの家と連携し、地域の活動に参加して、地域の一員として顔が繋がる関係を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のふれあいサロンでの交流や運営推進会議を通して、活動の報告(説明や写真のスライドショー)や地域の方々との交流を深めて理解をしていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の生活状況(入居者数、要介護状況、入退去、入退院状況)、事故報告、身体拘束廃止など報告し、意見を求め、サービスの向上に向けて取り組んでいる。	家族、成年後見人、自治会会長、公民館館長、シニアクラブ会長、民生委員、いきいきセンター職員の参加を得て、2ヶ月毎に年6回開催している。会議では、ホームの状況や行事、事故、身体拘束廃止等の報告を行い、参加委員からは、質問や要望、情報提供を受け、それらをサービスの向上に活かせるよう努力している。	毎回14~15名の参加があるため、避難訓練や試食会、レクリエーション、専門職を講師に呼んで行う勉強会等、参加型のテーマを探り入れ、参加したくなる会議を目指し、内容の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営基準や困難事例など発生した場合には保険者に相談し、適切な対応や連携に努めている。	管理者は、行政窓口にホームの空室状況や事故報告を行い、疑問点を尋ねる等連携に努めている。運営推進会議にいきいきセンター職員が出席し、情報交換しながら協力関係を築いている。また、家族や介護者交流会に運営スタッフとして職員が参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福岡県身体拘束0宣言を実施している。また福岡市やグループホーム協議会などの身体拘束廃止に向けた研修にも積極的に職員が交代で参加し、内部研修にて情報の共有をしている。玄関は常時施錠し、センサーなどうまく利用しながら、安全の確保と事故防止に努めている。	身体拘束の研修が義務付けられ、内部外部の研修に職員が参加し、正しい理解に努めている。「身体拘束0宣言」を掲げ、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、運営推進会議の後に、身体拘束廃止委員会を実施し、報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の外部研修にも職員が交代で参加しながら、内部研修を行い、情報の共有を図っている。管理者は職員とコミュニケーションや面談を行い、ストレスチェックや実情の把握、ストレスケアに努めている。入居者の心身の状態の把握にも力を入れて把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修にも職員交代しながら積極的に参加して、内部研修を実施し、情報の共有を図っている。また成年後見人制度も内部研修を行い、理解を深め、利用されている方は関係者とも連携を図り、必要な方は活用できるように支援している。	権利擁護の制度についての外部研修に参加し、内部研修で情報を共有して理解を深めている。資料やパンフレットを用意し、必要時には制度が活用出来るよう、支援している。また、現在、成年後見制度を活用している利用者がいることから、後見人とも連携しながら支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、利用前より入居に至るまでの流れや面談などを入れながら説明し、重要事項・契約書の説明は場所を設けて十分に説明を行い同意を頂き、契約の実施している。その他入居者やご家族から不安や疑問があれば都度説明を行い対応している。また、法改正による利用料金や単位数、加算関係の変更については、改めて書面にて説明を行い同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通してご家族の方からの意見や要望を頂いて運営に反映させている。意見箱を設置しているが意見書の投函はなく、面会の際に要望や意見があれば都度伺い、対応を行っている。また年2回家族会を行い、事業所活動の理解や意見交換、親睦を深めている。	職員は日常の関わりの中で、利用者の要望を聴いて反映させている。夏祭りやクリスマス会等、行事を兼ねた家族会を年2回開催し、ホームや利用者の現状報告をしたり、意見や要望を尋ねている。ホーム便りの「ゆかり便り」を毎月送付し、利用者の健康状態、介護計画実施状況を詳細に報告している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やスタッフ会議を定期的に開催し、現場からの意見や提案を聞く機会を設けている。また個別面談や相談など隨時行い、意見や提案の内容によっては管理者会議などでも取り上げて、運営に反映させている。	勉強会を兼ねた全体会議の後に、ユニット毎にカンファレンスを兼ねた会議を月1回開催している。管理者は、職員とのコミュニケーションに努め、意見や提案が出しやすい、風通しの良い環境を心掛けている。出された意見、提案については検討し、サービスの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、自己評価、管理者評価を定期的に行っている。必要があれば待遇面の向上を進言している。働きやすい職場環境づくりの為、労働時間内での業務や有給休暇の消化、業務の改善や環境面での整備などを行い離職防止に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関しての性別、年齢等を理由に採用対象から排除する事はない。採用に関してはその方の希望する勤務日数や労働時間等を面接で伺った中で検討し、採用に繋げている。事業所で働く職員についても、年齢や体力、持病など個々の状態や状況にも応じながら、その方が働きやすい形態での勤務に繋げている。	管理者は、職員を適材適所に役割分担することで、職員一人ひとりが能力を発揮して生き生きと働けるよう配慮している。また、職員間の関係が良く、職員は定着し、助け合いながら細部まで行き届いたチーム介護に取り組んでいる。年間を通した研修計画に基づいた勉強会を実施し、職員のスキルアップに繋げている。	現在、子育てが終わった世代の職員がほとんどである。10年先を見通して、次世代の職員の確保、育成に取り組んでいく事を期待したい。
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ会議や内部研修を通して、入居者の人権の尊重についての教育を行っている。「自分だったら」に置き換えて相手の立場に立ってケアする事を指導している。また、理念や年間月間目標を申し送り時に読み上げ、意識を持てるように取り組んでいる。	外部の人権研修に交代で参加し、内部研修でも学ぶ機会を設け、利用者の人権を尊重する介護の在り方について、職員間で話し合っている。馴れ合いからくる言葉の乱れに注意し、常に利用者を敬う気持ちを忘れずに、理念や目標を毎日唱和することで、意識しながら実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が交代で、外部研修に参加してスキルアップを図ったり、内部の研修では担当者に資料作成や発表をすることで、スキルアップに繋げている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の3事業所合同勉強会や管理者会議などで交流を通じて向上を図ったり、地域の事業所交流会やグループホーム協議会の交流にも参加するなど連携を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に状態確認や自宅訪問などで回数を重ねることで顔見知りの関係作りを行い、不安解消に努めている。入居の際は自宅の環境に近い部屋作りを家族と一緒に行っている。初期は不安や落ち着かない事などが予想される為、時間をかけながら解消に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前から面談を重ね、入居後の生活支援、利用料金面や急変時の対応、その他ご家族の心配事など親身に受け答えをする事で信頼関係の構築を目指している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始にあたっては、今までの生活の環境に近い対応での支援を目指し、暫定プランを作成しサービスの実施を行っている。その後本人様のニーズや実情等を検討し、必要時はサービスの内容を変更・調整するなど、柔軟に対応を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その方らしさ」を大切に、入居者様個々人の能力や生き様などを尊重しながら、今の暮らしの中できることを支援したり、日々の日課や大切にしてきた事などを模索したり、引き出したりすることで、「その方を知る」事に繋がり、本当の家族のような存在で支援する事を目標理念に掲げている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内だけでは支えるのではなく、ご家族も一緒に支える事を大切にしています。日頃の状態の報告は、面会時にお話ししたり、月に1度お便りを送り、様子をお知らせしている。病院受診はご家族が主で動き、家族受診が難しい場合は家族に代わって受診をし、受診結果をお伝えしながら情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係を大切に、面会に来ていただけるようにしている。また外出の機会を設けて、買い物やドライブ、馴染みの店などへお連れするなど支援している。	友人、知人、親戚の方等の面会を歓迎し、気軽に訪問してもらえるよう声掛けしている。また、地域行事への参加や馴染みの店への外出等、利用者一人ひとりの馴染みの関係を大切にしている。家族と普段行けない場所への外出も積極的に支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性に配慮しながら、座席などを設けている。また、入居者同士コミュニケーションやレクリエーションを楽しんで頂けるように職員が仲介に入り、支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の状態確認や面会に伺っている。また、移動後、当事業所へ本人の生活状況の確認などの連絡や相談があれば随時お答えしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日常生活上の希望や意向の把握に努めている。スタッフ会議でも本人様の希望や要望、困難な事など検討し、実施に向けて取り組んでいる。	日常生活の中でのさりげない会話から、思いや意向を察知し、把握するよう心掛けている。意向の把握が困難な場合は、家族に相談したり、利用者の表情や仕草から汲み取り、常に本人主体である事を意識し、理念にもある、「その人らしく」を大切にした支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始に向けて、現状の様子を聞き取るなど、ご本人やご家族と面談の機会を作り、状態の収集を行っている。その中でご本人の嗜好や大切にされてきたことなどを伺い、サービスに繋げている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主治医の意見書や現在の介護状況を踏まえて支援にあたっている。日常の様子は申し送りなどで職員間での共有を図り、スタッフ会議で状況の把握と支援の統一を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者やケアマネージャーが入居者やご家族からアセスメントを行い、その方のニーズに合わせて、ケアプランを作成し、サービスの提供を行っている。また、定期的にモニタリングを行い、その方の状態に合わせて支援している。	担当者、ケアマネージャーが中心となり、本人や家族の意向を尋ね、医療関係者、職員がそれぞれの立場から充分な意見を出し合い、その人らしい介護計画を半年毎に作成している。また、定期的にモニタリングを行い、課題を明確にして、現状に合った介護計画の作成と実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記載しているが、内容が薄かったり、介護者側の主觀が強い時もある。特変のある方などの記録は、PCで申し送りとして統一し、確認し周知徹底を図っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりのニーズに合わせ、外出支援や地域での活動、受診など柔軟にサービスを行っている。また、食材の買い出しに入居者にも同行していただき、一緒に運ぶなど支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方を招いて音楽会や、地域のふれあいサロンなどを利用しながら、参加して頂いているが、地域での活動では入居者が交代で参加できるように配慮している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクター(かかりつけ医)を中心に、必要に応じて地域の専門医や総合病院に繋いで頂いている。また、個別に受診の支援なども行い、都度情報をかかりつけ医に報告するなど関係性を築き、ご家族へも連絡やお便りにて情報を共有している。	利用者や家族の希望を聴いて、主治医を決定している。ホームドクターによる往診、緊急時、夜間の指示などの体制が整い、ホームの看護師や介護職との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。ホーム便りやその都度の連絡で、家族との医療情報の共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日々生活状況や健康状態の把握や記録を行い、看護師にも確認をしていただいている。また、異常があれば連絡を行い指示を仰ぎ、迅速に対応ができるように努めている。必要に応じて受診を行ったり、ホームドクターに連絡するなど対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームドクターに連絡後、状況に応じて緊急搬送や受診などを行い、医療機関との連携を図っている。入退院に関しては医療機関連携室と連絡を取りながら、早期退院を目指せるように情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、状態悪化時に重度化した時の対応やターミナルケアについて、グループホームでの方針や援助内容などを説明し、入居者やご家族の希望を聞きながら、同意を得ている。また、重度化や終末期に向けた対応が出来るように研修等への参加を行っている。	重度化や終末期の対応については、契約時に、ホームで出来る支援について説明し、了承を得ている。利用者の重度化に伴い、家族との話し合いを重ね、その方の状況に応じた支援に努めている。また、看取りについての研修を受講する等、重度化や終末期の対応に向けた体制作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の事故発生マニュアルを作成している。スタッフには定期的に緊急時の対応訓練を実施している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に定期的に防火訓練を行っている。また、非常食や飲料水、緊急時の持ち出し物などを準備している。地震、水害時の地域との協力体制については運営推進会議で議題に挙げ組織づくりを進めている。	消防署の協力を得て行う防災訓練と、自営防災組織で行う避難訓練を毎年1回ずつ実施し、マニュアルを確認しながら、通報装置や消火器の取り扱いを声に出して訓練している。利用者の医療、薬情報、緊急連絡先を非常時に持ち出せるよう準備し、非常食、飲料水等も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの尊重を心がけながら、日々の業務にあたっており、職員も毎朝理念を読み上げ、意識づけを行っている。また、その方のプライバシーへの配慮にも心掛け、職員同士が気付いた時には声を掛け合いながら配慮に努めている。内部研修などでも議題にあげなど、尊厳とプライバシーの配慮に努めている。	利用者に対して、常に尊敬の念をもって接し、人格を尊重することに気をつけた声掛け、対応を心掛けている。また、内部研修で、尊厳を守る対応、プライバシーの保護の徹底を図り、接遇については、職員間で気づいた事を注意し合い、改善に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者からの希望やご家族から本人が以前から大切にされてきた事や嗜好の希望を頂けるように、日頃から、家族との関係性に力を入れている。希望に沿って提供できるか検討を行いながら、業務の中に組み込めるのかなど前向きに取り組んでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのその人らしい生活に合わせて支援していくのが理想ではあるが、職員の勤務や業務に合わせてのサービスの提供になっている部分もある。先々、本人の過去の生活スタイルに沿って業務を合わせるような支援が出来るように検討している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが整えられるように、ご家族には本人専用の櫛やドライヤー、鏡、化粧道具など物品の持ち込みなどに関しては制限をしていない。ご自分で出来ない方には整容介助は行っている。おしゃれに関しては現に貴金属やアクセサリーなど自己管理で装着されている方もいる。外出の時には好みの帽子をかぶられる事で、気持ちも明るくなられている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には美味しく食べるように嚥下体操に取り組んだり、食事の取り分けや炊事など出来る方には一緒に取り組んで頂いている。	配食業者から献立に基づいて配達される食材を使用し、レシピ通りではなく、職員がアレンジをして、栄養と利用者の身体状況に配慮した美味しい食事を提供している。また、利用者の能力に応じて、つぎ分け等と一緒にを行い、簡単なおやつ作りにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の管理栄養士が立てたメニューを元に職員が調理している。入居者の状態に合わせて、量の調節や補助食品、塩分調整、食事形態、水分量、トロミ材の使用、食事水分量の記録を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方もできない方も、歯科往診の先生に週に1度口腔内の状態を見て頂き、診察、治療、口腔ケアを行っていただいている。また、介護職員へも口腔ケアの指導等を頂き、適切にケアが出来るように指導助言を頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握や排泄状況の観察の為、記録を行っている。失禁のある方は定時での誘導を行うなどして清潔を保っている。訴えがある場合は都度誘導を行い対応している。その方にあった排泄用品の見直しも定期的に検討の課題がある。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努め、利用者一人ひとりの心身状況に合わせたトイレ誘導、介助に取り組んでいる。適切な排泄用品を使用することにより、自立支援に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の観察を記録し、状況に応じて内服での調整を行っている。その他体操や散歩、お食事にも野菜を多めに意識して使用するなど工夫をしている。また、水分量の少ない方へも意識して声掛けや提供を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、入居者の体調や状態に合わせて提供している。また、体調が悪い時や機嫌の悪い時などは入浴から清拭に変えたり、翌日に入浴を変更するなど柔軟に対応している。職員への介護拒否等が見られるなどある場合はスタッフを変えて対応するなど状況に応じて対応している。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して支援している。湯船にゆっくり浸かり、職員と一对一の会話をしながら楽しい入浴となるよう支援している。入浴拒否の利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けする等、無理強いせずに対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活スタイルに合わせて対応している。日中は午後から居室にて休まれたり、フロアのソファーでくつろがれたりと自由に過ごして頂いている。夜間、中途覚醒して起きて来られる方もおられるが、都度対応しながら夜間起きて過ごされる方もおられる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の際は医師や薬剤師より説明を受け、容量、用法を正しく使用しながら、薬の管理、服薬を行っている。体調不良者が出了した際も、ホームドクターに相談しながら指示に従って服用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者同士が歌を歌ったり、話がしやすい環境ができるように支援している。ご本人の残っている能力を見極めながら、家事援助(洗濯物たたみ、食事の準備や後片付けなど)にも取り組んでいる。誕生日にはご家族にも声をかけ、一緒にお祝いでできるような場を作り、楽しんで頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に岀かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分転換に外出の機会を度々作り、入居者が交代で外出できるよう支援している。また、毎週火曜日は昼食にパン食を設けている為、入居者と一緒に買い物支援で好みのパンや食材を選んで頂くなどして喜んでいただいている。	ホーム周辺の散歩や、毎週火曜日の昼食のパンや食材の買い物等、外出する機会を度々設け、利用者の気分転換を図っている。季節毎に外出レクレーションを計画し、花見やドライブに出かけている。また、家族の協力を得て、利用者と外出の機会を設け、利用者の生きがいに繋がる楽しい外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持についてはトラブル防止の為、原則的には預かり金として事業所管理としている。自己管理が可能な方は少額で家族へお願いし、所持を認めている。買い物や外食の際は職員が支払いなどの確認も行なながら、管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればお繋ぎしている。また、携帯電話を持ち込まれている方もおられる。手紙が事業所の入居者宛にも来るので、必要に応じてハガキや年賀状、手紙など支援し、投函している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内やトイレなどにも季節感のある生花をいけるなど季節感を演出している。また、入居者が過ごしやすい環境づくりを行い、安心安全に生活が出来るように検討し工夫している。	職員が自宅から摘んできた季節の花を、利用者が花瓶に生ける等して、季節を感じられる共用空間作りに心掛けている。また、清掃、整理整頓等、常に清潔な空間を保てるよう努力し、温度・湿度の管理や換気、明るさ等にも配慮し、利用者が気持ちよく過ごせるよう工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性や関係性もある為、テーブルの配置に工夫したり、過ごしやすい環境を提供している。また、フロアで過ごされる時も、退屈されないようにテレビや音楽、パズルや新聞などお好きな時間を過ごせるように提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室づくりはご家族にも協力を頂きながら、ご本人らしい部屋作りを行っている。入居者によっては、家具がある事での危険性や、異食行為がある方の配慮の面から、その方に応じた居室作りを行っている。	電動ベット、エアコン、クローゼットを備えた広い居室である。利用者の馴染みの箪笥やテーブル、椅子等の家具や仏壇、家族の写真等、大切な物を家族と相談しながら持ち込んでもらい、その方らしい居室作りに努め、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内バリアフリーになっており、安全に生活できるように環境を整えている。入居者一人ひとりの能力に応じて自立支援に向けての生活が送れるように取り組んでいる。		